

今週の富大生

Weekly TOMIDASEI

第27号

医学部 看護学科 1年
共立女子中学高等学校
(茨城県出身)

国際医療の道で世界へ



人生に大きな影響を与えた留学の経験

小学生のころから医療分野に興味を持っていました。テキパキ動くのが好きで、手術（オペ）や救命救急のように瞬時に判断して処置を施す現場に憧れを抱きました。「国境なき医師団」のことを本を読んで知り、海外で働きたいという思いが強くなりました。高校2年の時、1年間高校を休学してイギリスに留学しました。語学の習得、イギリスの文化、欧州での医療のあり方に触れる貴重な経験でした。

4年間で3つの資格が取れること

1年間の英国留学が終わって帰国後、日本での大学受験はすぐに迫っていました。当初は医学科受験を考えていましたが、「国際医療に携わりたい」と考えたときに、看護が選択肢に入りました。富山大学の看護学科は、4年間で看護師・保健師・助産師の3つの受験資格の取得可能な点が魅力でした。国際医療の現場では保健師や助産師の需要も高いので、選択肢を増やすという意味でも私にとって重要でした。新幹線で東京から2時間という距離感と、受験で初めて富山に来た時に感じた「きれいな街」という印象もありました。

日々刺激を受ける国際サポーターの活動

大学入学後は8つのサークルに所属しており、日々とても充実しています。中でも、国際サポーターの活動には力を入れています。モンゴル、マレーシア、ハンガリー、中国、タイなど様々な国から富山大学で学んでいる学生を、英語を通してサポートする活動がメインです。関わる学生は多様で母国も、世代も、学ぶ分野も様々です。目的意識をもって富山大学で学ぶ彼らを近くで見て、関わることで、私もたくさん刺激をもらっています。

「世界で働く」目標のために、大学院へ

現在関心のある生殖医療・国際保健・感染症疫学・放射線医療の分野から1番熱量をもって研究したいと思う分野を学部4年間で見極め、大学院で専門性を深めていきたいです。また、国際医療に携わるための経験や知識を得るため、学生の間で国連専門機関でのインターンシップに参加したいです。学生会員として参加している国際保健医療学会や国際開発学会から紹介があるセミナーにも積極的に参加し、情報収集を行っています。最終的には国際機関で現場と研究の両輪で活躍することが私の夢です。



母校の後輩へ

どんなに大変な時でも、自分を信じて進んでいけば、きっとその先には「これで良かった」と思える出来事が待っているはずです。受験は通過点の一つです。たとえ道が曲がってしまっても、その先で自分らしい幸せにたどり着けるチャンスは無限にあります。だからこそ、目の前の今を精一杯楽しんでください。迷った時は自分の気持ちに正直に！